

一部で明るい兆しも、依然先行き不透明

11月の業界WEATHER

全業種平均



前年同月比

概況

一足早い冬の到来により、一部において受注や売上が増加傾向にある一方、原油価格や原材料価格の上昇、競争激化等が収益を圧迫している。また、若年層を中心とした人手不足に伴う生産性の低下や人件費負担の増加に加え、地域間のバラツキ等が散見されており、依然として先行きに不透明感が漂っている。

製造業	食料品		パンは需要増加による新規参入業者の出現で競合が多く見られている。製麺は全体として横ばい状態が続いており、お歳暮需要も伸び悩んでいる。菓子も天候に恵まれたことで売上が増加し、景況感も上向いている。食肉は人件費や水道光熱費の経費負担の増加に苦慮している。
	繊維・同製品		桐生織物は和装織物について、秋冬物の一般品が厳しい状況となる一方、来期の夏物に向けた活動を開始している。繊維製品は天候の影響等で冬物の追加注文が増加しており、景況感も好転している。ニットは冬物の納品が最盛期を迎え、収益が好転している。
	窯業・土石製品		生コンは公共工事が伸び悩むも、東毛地域の堅調な民需や吾妻地区の八ッ場ダム関連工事に支えられ出荷量が増加。コンクリート製品は受注増加により生産活動が活発化する一方、原材料価格の上昇による企業間競争が散見されている。砕石は売上や収益に地域間格差が見られるも、全体としてほぼ横ばいを維持している。
	機械・金属		食料品や建設機械関係は好調に推移している。自動車関係は大手企業の不正問題の余波もあり、減産傾向となる一方、依然好調が続いているSUBARU関連は、無資格検査問題の影響を引き続き注視している。鍍金は都内における東京五輪関連需要の県内への波及効果は見られず、地域間格差の拡大を不安視している。
	その他の製造業		木材は荷動きが停滞気味となる中、依然として原料不足の状態が続いている。印刷は比較的堅調に推移する一方、退職者の補充に伴う人材確保に苦慮しており、年末需要にも企業間格差が見られている。紙加工品は原材料価格の上昇に対する販売価格への転嫁を進めるも、今後の負担拡大や混乱を危惧している。
非製造業	卸売業		建築材料卸売業は価格競争の激化や、人材確保を目的とした人件費の上昇で収益が悪化傾向にある。農産物卸は10月の台風による品薄状態が続いたことで、取扱量が減少するも、価格の高騰により前年並みで推移している。水産物卸は売上・収益ともに伸び悩む中、正月用品の需要増加に期待している。
	小売業		家電小売は天候の影響もあり、エアコン等の暖房器具の売上が増加している。自動車オークションは出品台数が若干落ち込むも、成約率は順調に推移している。生花小売は天候不順により卸値が上昇した影響で、全体的に消極的な仕入活動となる。商店街はイベント開催時を除き、気温低下で客足が落ち込んでいる。
	サービス業		温泉旅館は日の並びに恵まれたことで、各地で入込数が増加する一方、人手不足感が強まっている。不動産取引は伊勢崎市域において、若者人口の割合が多く住宅需要は堅調に推移している。一方で、事業用はIT活用による働き方の多様化等でオフィス需要が減少し、店舗物件も出店者の減少により需要が低迷している。
	建設業		建設工事は公共工事量の減少傾向が続く中、事業量の地域間格差が拡大している。電気工事は受注が増加傾向にあるも、人手不足に伴う工期遵守に苦慮している。解体工事は公共工事の受注が増加するも、若年層の確保に苦慮している。鉄構は発注者における施工図決定の遅れが全体の工程を圧迫している。
	運輸業		繁閑の差が大きく、月末などは一部で車両の手配に苦慮する場面も見受けられる。原油価格の上昇に伴う燃料価格の上昇や、労働時間の短縮に向けた高速道路利用の増加が収益を圧迫している。小口配送は東毛地区を中心とした自動車部品関係等が好調で、遠方輸送も増加傾向となり、売上・件数ともに増加している。

※本調査は、情報連絡員56人が所属する組合の全体的な景況（前年同月比）です。

県内の主な経済指標

- 鉱工業生産指数(季節調整値) 115.4(前月比+0.9%)「県統計課・10月」
- 住宅着工戸数 1,320戸(前年同月比+17.5%)「県建築住宅課・10月」

- 求人倍率(季節調整値) 新規2.24倍・有効1.62倍「群馬労働局・10月」
- 大型小売店販売額 203億円(前年同月比▲0.6%)「経済産業省・10月」
- 消費者物価指数(全国) 100.6(前年同月比+0.2%)「総務省統計局・10月」
(鉱工業生産指数は22年=100とした指数・消費者物価指数は27年=100とした指数)